

はじめに

今年度も、市民の皆様をはじめ多くの方々から、矢作川研究所の調査研究活動に対して多大なご支援、ご指導、ご協力をいただき誠にありがとうございます。また、所報「矢作川研究所」第19号を刊行することができ、これもひとえに、研究所を支えていただきました関係者の皆様のご助力の賜と感謝しております。

平成6年に設立されて以来、天然アユの復活と水源林の保全に取り組んできました矢作川研究所も平成26年度に20周年を迎えました。今年度は、この20年を振り返り、今までの調査研究成果への評価と、今後の取組みに方針について問われた1年でした。昨年2月に開催しました「創立20周年記念シンポジウム」において、これまで研究所が積み重ねた実績に対し多くの皆様から高い評価をいただきながらも、反面情報発信力と実践力の不足に対しご指導いただきました。所員一同深く自省するとともに、今後の調査研究活動においても新たな展開へとステップアップしていく必要性を痛感した次第です。

このような状況の中、新たな矢作川研究所の取組みとして、今年度より所員一丸となり「流域で考えるアユを育む川づくり」を目指した調査研究に着手しています。これは、設立当初の研究課題である「良く利用され、なお美しい矢作川の創造」に立ち返り、減少傾向にある“流量”がアユをはじめとする生物相に大きな影響を及ぼしていることに着目し、水源林の涵養能の回復と、流量の変動パターンがアユに及ぼす影響について調査研究をするものです。まだまだ、初期段階でありご報告するまでには至っていない状況ですが、次号以降、随時皆様へ取組み成果をご紹介します。

子供の頃、日が暮れるまで矢作川で泳いだり魚釣りをしたり、いろんな川遊びをした思い出を懐かしむ人は多いと思います。しかし、最近川は“遊ぶには危ない場所”というイメージがあるのか、川遊びを楽しむ子供の姿もめっきりと見なくなったのではないのでしょうか。研究所としても危機意識を持ち、川の自然や文化を次世代の子供たちへと継承していくため、矢作川学校をはじめとする環境学習活動にも精力的に取り組んでいます。

これからも、矢作川が“母なる川”として地域住民に親しまれるよう、市民の皆さんや諸団体の皆さんとの情報交換、また河川管理者をはじめとする関係機関との連携を密接に行い、調査研究活動がより良い河川事業に向けた提言となりますよう、所員一同頑張っていく所存であります。皆様には、今まで以上のお力添えをよろしくお願いいたします。

平成27年3月

豊田市矢作川研究所 所長
早川 匡